

令和3年度大学における文化芸術推進事業採択一覧

【単位：千円】

大学名	事業名	事業概要	内示額
1 秋田公立美術大学	複合芸術ビクニック～「創造的 辺境」をむすぶアートマネジ メント教育プログラムの構築～	<p>【概要】①「企画編」として、連携パートナーである沖縄県立芸術大学と協働で、創造的辺境としての秋田と沖縄それぞれの環境や産業、経済、歴史、伝統、習慣を比較するとともに、双方の文化や社会を学びながら参照し、土地の条件や特性に応答したワークショッププログラムを開発する。 ②「企画編」で開発されたプログラムをベースとする地域探求プロジェクトの実践を通して、対象地域への理解を深めつつ、多様な地域理解に対する開かれた視座を養う。③地域研究や芸術表現の視点から、事業成果の理論化と方法論化を進め、アートマネジメント人材を育成する教育プログラムとして編集した記録冊子を制作する。</p> <p>【対象】各地域で進行するプロジェクトを担う学生や自治体職員、地域のNPO職員、メディア関係者</p>	17,400
2 国立大学法人 大阪大学	微の上を鳥が飛ぶⅢ－文学研究 科におけるアート・プラクシス 人材育成プログラム	<p>【概要】演劇、音楽、美術など多岐にわたる芸術の事前・事後双方の扱いを学ぶ「インターウィーヴ」的学習を通して、今日のアート・マネジメント人材に求められる、地域社会や共同体の課題に応じて臨機応変に対応する実践的な「アート・プラクシス」能力を人文的観点に基づいて養う。3年計画の3年目となる本年度には、受講生自らがアートイベント等を企画し、実施する事業をプログラムの核に据えつつ、3つのフェーズを用意し、プログラム全体を広く集中して学習できるようにする。フェーズA「レクチャー&amp;ディスカッション」では、レクチャーとディスカッションを行い、アートの基礎知識を学ぶ。フェーズB「インターウィーヴ」では、アートやアーティストとの交流による「インターウィーヴ」的学習を行う。フェーズC「受講生企画」では、フェーズA・Bでの研修成果をもとに、いくつかの「受講生企画」を実施し、企画立案、広報、運営、記録等のアートイベントにおける一切を受講生が担い、実践的にアートイベント運営方法を学ぶ。</p> <p>【対象】劇場・音楽堂・美術館・博物館等各種文化芸術関連機関勤務者や今後働きたいと考えている社会人、文化芸術を通じて地域社会に貢献をしたいと考えている社会人・学生</p>	20,000
3 公立大学法人 沖縄県立芸術大学	今を生きる人々と育む地域芸能 の未来 －「保存」から「持続可能性」 への転換を志向する場の形成と 人材育成－	<p>【概要】①「地域芸能と歩む」プロジェクト・フェローが「地域」や「芸能」を切り口にプレゼンテーション形式のワークショップを通じてお互いの経験や知見を共有する「地域芸能と歩む」研究会（実践ゼミナール）、②第一線で活躍する研究者、作家、アーティストを講師に招き、地域芸能を理論的・学術的な視点から捉える「地域芸能と歩む」レクチャー・シリーズ（全6回）、③アーティスト2名を招聘しアーティストが地域の中でその土地の音楽文化をリサーチし、担い手たちから芸能を学び、そこから自らの創作活動を展開していくモデルケースを実施する「地域芸能と歩む」アーティスト・イン・レジデンス・プログラム（地域住民との協働によるプロジェクト型実践プログラム）、そして、④「地域芸能と歩む」BOOK制作プログラムの4つの活動を通して、地域芸能の活性化に取り組む人々のための学びの場の提供と、情報を共有し、共感しながら学び合える人的交流を促進するプログラムを構築する。</p> <p>【対象】自治体・支援団体職員、保存会等構成員、劇場・音楽堂職員、教職員、アーティスト</p>	18,200
4 学校法人中村産業学園 九州産業大学	「2042年問題」解決に向けた社会 資源を活用した「健康寿命」 増進プログラム開発とリンク ワーカー人材育成事業	<p>【概要】 1. 博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発講座（博物館などの社会資源を活用した、回想法、園芸療法などの「健康寿命」プログラムの体験、そして企画立案・実施運営の方法を学ぶ講座） 2. 博物館リンクワーカー人材養成講座（博物館などが社会的処方場となるための理論と実践を学ぶ講座） 3. 博物館のリラックス効果に関する実態調査（リンクワーカーがつかないプログラム参加者への生理測定、心理測定による効果評価の調査） 4. 海外博物館、美術館などにおける「健康寿命」増進プログラム及びリンクワーカーの実態調査（海外の先進事例を調査し、今後の方策を検討する） 5. 海外の博物館関係者、リンクワーカーを招聘した国際シンポジウムの実施（海外事例の紹介、及び関係者の交流の場とする） 6. 本事業を紹介する多言語映像資料の制作（海外博物館、美術館などに向け社会資源活用の成果を公開する）</p> <p>【対象】博物館学芸員・図書館司書資格者（休職学芸員）、博物館学・図書館学を学ぶ学生、博物館・図書館と健康に関心のある市民、在住外国人など</p>	11,200
5 国立大学法人 京都工芸繊維大学	産学官連携を基盤とした文産官 人材育成プラットフォームの形成 －アート・デザインを活用した 価値創造人材育成プログラムの 展開－	<p>【概要】本年度の事業は、19年度・20年度に協働で事業を実施した東洋アルミニウムとの連携の継続として、受講生がアルミ素材を中心的に使う京都工芸繊維大学美術工芸資料館の収蔵資料を題材としたグッズの作成（試作）をおこなう。なお、今年度に引き続き試作品についてのプレゼンテーションおよび展示をおこない、美術工芸資料館来館者を対象に、実現可能性を前提とした「人気投票」を実施し、高く評価された作品については流通サイクルにのせるというマーケティングを中心とした試みを実施する。なお、素材としては、東洋アルミニウム株式会社より提供されるアルミ素材を中心に使用するが、適宜、他の素材を組み合わせていくことにより、より実装性の高いグッズを考案することとする。本年度は、作成した試作品およびあらたに考案・制作した試作品の流通・販売というサイクルまでを受講生がプログラミングすることにより、事業がより強い社会実装性を獲得することになる。</p> <p>【対象】2019年度、20年度事業経験者も含めた芸術・デザイン系大学の大学院生から10名程度を選抜して、プロダクト・グラフィック・テキスタイルに分けて実施。</p>	5,700
6 京都市立芸術大学	「聞こえないを聴く、見えない を視る～未知を開くファシリ テーター育成事業 CASE-3：霧 の街のポリフォニー	<p>【概要】 ①「霧の街のポリフォニー」では開発により変容してゆく地域の記憶を言葉や映像ではなく身体や環境に働きかけ潜在する複数のノイズ・多声＝「耳の心」を想起する方法を試みる。②「シャドーワーク2」では、「芸術・ゴミ・大学」から「芸術・ゴミ・地域」へと視野を広げ、ギャラリーや美術館での作品展示とは異なる価値観でアートを捉え直し、作品の副産物（ゴミ）と東九条の地域をつなげる仕組みを構想する。③「分有の技法」では、詩作・模型・道祖神など身体と自然の対話が必要な領域とオン・ライン / オフ・ラインの関係を探ることで、離れつつも共に有り、経験を共有することをテーマにした創造実践のあり方を探求する。</p> <p>【対象】アートマネジメントを目指す大学院生や社会人、行政の文化政策やまちづくり担当者、社会との関わりに意欲をもつアーティスト、開かれた美術館のあり方を模索する学芸員、創造性を活用した教育を目指す教員や教育学部の大学院生、コミュニティーアーカイブの作成を目指す市民</p>	13,900
7 学校法人 京都精華大学	マイノリティの権利、特にSOGI をはじめとした〈性の多様性〉 に関する知識と、それらを踏ま えた表現論理のリテラシーを備 えたアートマネジメント人材育 成プログラム	<p>【概要】SOGIをはじめとした〈性の多様性〉に関する学びに関するメディアコンテンツ制作ゼミ・テーマ研究ゼミ・事例研究ゼミ・ネットワーク構築ゼミによる「#わたしが好きになる人/#The people I love are!」を開講する。これらのゼミでは、作品制作・マネジメント・キュレーションといったさまざまな芸術実践における倫理のありようについて、先行事例などを学び、思考を深めながら、オリジナルのメディアコンテンツの制作・発信を行う。本事業は、2023年9月に向けて誰もが自分らしく生きて行ける社会の実現やジェンダー平等を目指す「京都を拠点としたプライド・アートプログラム（仮称）」の実施を視野に入れている。</p> <p>【対象】アート表現やアートプロデュース、表現論理を学ぶ学生、アートプロジェクトの運営にかかわる実務者、大学教員をはじめとした研究者</p>	11,200
8 学校法人四国学院	地域の課題に向き合う社会包摂 型劇場を創り、運営していくた めのアートマネジメント人材育 成プログラム－大学と連携する 丸亀市の新市民会館「（仮称） みんなの劇場」開館準備プロ ジェクト2021－	<p>【概要】地域の矯正施設・障害福祉サービス事業所・小児病棟・商店街・保育所・幼稚園等で、それぞれの現場の課題解決に向けた演劇・ダンスワークショップや公演を実施する。また、本学ノスタジコを有効利用し、プロの実劇公演を2作品上演、その運営に関わる講座を開講し、より実践的で地域性を備えた人材の育成にあたる。コロナ禍が終息しない場合でも対応可能な少人数での芸術活動・映像配信可能なプログラムも開発し、市民が芸術文化に触れる機会を保障する。こうした取り組みから得た知見とデータをもとに客観的に実施プログラムを評価、見直し、アートマネジメント人材育成プログラムとして体系的にまとめる。</p> <p>【対象】公共ホール・文化課職員、演出家、振付家、ファシリテーター・アートマネージャー、保育士・学校教員・社会福祉施設職員、アートボランティアを本格的に担える一般市民等</p>	10,800
9 学校法人東成学園 昭和音楽大学	アートマネジメント人材育成事 業「実演舞台芸術プロデュ サー養成講座」	<p>【概要】実演舞台芸術をプロデュースする総合的な能力を育成する講座。①ポストコロナ時代を見据えて、実演舞台芸術における発信力向上や人材育成について、欧州のオペラ祭やキャリア専門家とオンラインで繋ぐ公開講座。②実演舞台の再開にあたり求められるインターネットの活用などの最新情報を学ぶ実践的なオンライン講座&amp;ワークショップ。(a)インターネットにおける著作権ルール、(b)実演舞台芸術をめぐる環境はどうなる？、(c)インターネット時代の広報、(d)寄付とクラウドファンディングなどを学ぶ。③昭和音楽大学オペラ公演「モーツァルト：コジ・ファン・トゥット」の公演制作の機会を捉えて、制作スタッフの視点からオペラの「音楽」と「演出」それぞれの過程を、4回のオンライン講座と6回の実地見学とで多角的に学ぶ。</p> <p>【対象】全国の文化施設、自治体、実演団体、音楽事業者などの職員・スタッフやその志望者、各大学アートマネジメント専攻学生、ほか同領域での制作者や担い手を指す方。</p>	28,000

令和3年度大学における文化芸術推進事業採択一覧

【単位：千円】

大学名	事業名	事業概要	内示額
10 政策研究大学院大学	劇場活動にかかる評価リテラシー育成のための教育プログラムの開発：自己評価ガイドブックの作成及び調査アプリの開発	<p>【概要】本事業は以下4つの活動から構成され、いずれも成果は後に無料でウェブ公開予定。①「評価リテラシー育成のための特別講座」：「政策評価の基礎と応用」「評価事例の研究」からなり、全国で受講可能なストーリーミング配信を行い、評価にかかる基礎的知見を共有する。②ロジックモデル等による自己評価：協力劇場毎にロジックモデル等を作成し、必要なベンチマークを抽出するなど自己評価を試みる。③調査アプリの開発：スマートフォンとQRコードを活用した調査アプリの開発を行う。協力劇場（研修生）との情報・意見交換のためのデモンストレーションを開催する。④国際シンポジウム等の開催：知見の共有と深化のためのシンポジウムやセミナーを開催する。</p> <p>【対象】地域の主導的な役割を担う公立の劇場・音楽堂等で舞台制作の企画や実践に関して経験を積んだミッドキャリア現職者</p>	19,100
11 学校法人相愛学園 相愛大学	次世代の伝統芸能コーディネーター育成プログラムの開発と実践	<p>【概要】①「伝統芸能連続講座～上級編～」を通して、伝統芸能の特色について理解を深める機会を提供し、専門分野やジャンル、関心領域を横断した情報共有の活性化を促す。②国内外の専門家の協力を得て、シンポジウム等を通して伝統芸能の魅力や特色を学術的・社会的に検証及び発信する「伝統芸能魅力検証プロジェクト」を行う。③「人形浄瑠璃文楽」に関連させた「特別演奏会（特別公演）」を開催する。④「雅楽への誘い」をテーマとするアウトリーチ活動（映像制作を含む）を行う。</p> <p>【対象】伝統芸能に携わる人材、劇場や音楽堂等に従事する現職者、一般市民等</p>	12,800
12 学校法人 東京音楽大学	日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成～「伝統×伝統」、「伝統×現代」、「伝統×地域」のクロスオーバーによる新たな価値の創出を目指して～	<p>【概要】①「地域における展開に向けた事例調査と発信・共有」として、日本とアジアの伝統音楽・芸能の地域における展開を検討するための(1)事例の現地調査、(2)事例の公開報告会と意見交換会を実施する。</p> <p>あわせて3か年の集大成として、以下の2つを展開する。</p> <p>②「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントプラットフォームの構築」として、(1)基礎研究形成（本学が有する資源を活かした日本・アジア伝統音楽芸能総合アーカイブ）、(2)創造視点形成（国内外の作品や公演等の情報の集積と発信）、(3)交流拠点形成（実演・教育・マネジメント・創造等多様に想定される人材が交流し学びあう場の提供）等の複数の機能を有した、現場での活用と継続性を重視したプラットフォームを構築する。</p> <p>③「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブックの作成」では、これまでの基礎講座や実践セミナー等における成果を生かしハンドブックを刊行する。</p> <p>【対象】政府・自治体等芸術文化等担当者、音楽ホール等文化施設関係者、伝統音楽・伝統芸能団体関係者、学校関係者、演奏者・演奏団体関係者、アートマネジメント従事者等</p>	23,400
13 国立大学法人 東京藝術大学（映像）	インターメディア型プロジェクト・ベースド・ラーニング実践プログラム	<p>【概要】社会課題や都市問題を主題として、映像やパフォーマンスなど領域横断的な「インターメディア型プロジェクト」によって、創造性と社会性の新たな関係を確立する担い手を育成する。プロジェクト実践に必要な人文社会諸学の視座の習得を図り、ツアー・パフォーマンスやポストドキュメンタリーのワークショップを開催すると同時に、シーレンをメインテーマとした国際共同での学際的調査、そしてインターメディアによる先駆的なアートプラクティスの研究開発を実施し、アートプラクティスの新たな意義と価値を問いなおすプログラムを実施する（RAM Association: Research for Arts and Media-project）。</p> <p>【対象】同時代の芸術表現を実践的に問い直そうとする、アーティスト、演出家、映像作家、プロデューサー、キュレーター、研究者、エンジニア、建築家、編集者、プロジェクトマネージャー等</p>	18,900
14 国立大学法人 東京藝術大学（国創研）	2020の先にある新たな文化政策を実現するための広域連携について思考し実践する人材育成講座 Meeting アラスミ！	<p>【概要】①「連続講座『新しい文化政策』を考えるーアラスミ・アーツカウンシルの構築に向けてー」：専門家を招いての勉強会と参加者によるディスカッションを通じて「アーツカウンシル」についての理解を深める。その上で、3年間の成果の集大成である「アラスミ・アーツカウンシル」構想を発表するシンポジウムを開催する。②「アトリエ・ムジタンツー音楽と身体表現のコミュニティプログラム実践への取り組み」：音楽と身体表現を融合したコミュニティプログラムの開発・実施を行いアーティストとマネジメント人材の協働的な学びの場を提供する。③「『千住の1010人 from 2020年』の実現に向けた市民と行政の協働による広域連携と、そのプロセスの検証」：各区を横断した草の根ネットワークを継続的なものとするための市民アートマネージャーの育成や行政との意見交換、事業検証を行う。</p> <p>【対象】文化芸術関連行政職員、文化財団等自治体外郭団体の文化芸術担当職員、アートマネージャー、大学生、アートプロジェクトスタッフ・ボランティア経験者、市民</p>	15,100
15 東京工芸大学	アート&テクノロジーマネジメントにおける高度な理論及び実践力を持った工芸融合人材の育成	<p>【概要】①「色の国際科学芸術研究センターのアート&amp;サイエンス企画」：講座期間を前後半に分け、前半の基礎講座ではアート&amp;テクノロジーの国際的な動向、歴史、社会的な位置づけを学び、さらに最前線で活躍するアーティスト、キュレーター、研究者などの専門家のレクチャー及びディスカッションを行う。後半はカラポギャラリーでのアート&amp;サイエンスをテーマとした企画展（「ガウディの色と形」、「生活色に映すヒト展」）、カラー・リサーチ・ラボの運営に参加し、ワークショップ、ミュージアムグッズの開発を行う。②【AI、機械学習が生み出す新しいソーシャル・デザイン+インタラクション：ICGとの共同企画】：NTTインターコミュニケーションセンター（ICC）と共催でAI、機械学習による自動サーベイ、自動編集機能に対するビジュアル&amp;クリティカル・シンク展を開催し、VR、体験型展示など、アート&amp;テクノロジーの手法を駆使した展示を行い、展示企画から広報、新型コロナウィルス対策をした上での体験型作品の管理などのノウハウを蓄積する。また、カラーサイエンス&amp;アートを主題としたワークショップを開催する。④【国際シンポジウム及び情報公開】上記企画の総括として国際シンポジウム及び展示会を開催し、開発されたプログラムをWebサイトで公開し、SNSでも告知する。</p> <p>【対象】美術館・博物館の学芸員、アートマネジメント職を志願する学生や社会人、学芸員課程の学生、アーティスト、デザイナー、研究者、教育関係者、自治体の文化芸術担当職員</p>	16,800
16 国立大学法人 東京大学	文化芸術におけるSDGsのためのファンリテーター育成事業	<p>【概要】「格差なき包摂型社会の達成」、「真の意味での『潜在能力』の平等化」、「環境・気候変動と社会の関係の再構築」の3点を軸に、持続可能な社会の構築において文化芸術が果たしている役割について、周知・普及すること、文化芸術の今後の展望を示すことを目的とし、①レクチャーやラウンドテーブル、シンポジウムを行う。②首都圏のコミュニティスペースのファシリテーションを行う。③記録と資料を使用した表現におけるアートマネジメントを行う。④ツール開発を行う。⑤多言語交流ピクニックを行う。</p> <p>【対象】アートマネジメント従事者、アーティスト、研究者、文化芸術分野の行政・NPO職員、企業や教育関係者、アートマネジメント職志願の学生・社会人</p>	21,500
17 学校法人 東北芸術工科大学	街とアートのマルチプレイ〜地方都市におけるアートインストラー育成プログラム	<p>【概要】令和2年度に実現できなかった対面での活動について、社会環境に左右されないハイブリッド形式による開催の方法論を志向しながら、以下の4プロジェクトを継続的に展開する。①郷土史とアート：藩が湖伝説一新し・郷土史 編み方【展示編】／②街の祭りとアート：街のかたち一新し「祭り」の形態を志向する／③歴史的建造物とアート：Pink Public Project 第2章／④いのちの学校：多ジャンルにおける「身体とこころの全体性」を取り戻す場の創造</p> <p>【対象】クリエイター、編集者、デザイナー、工芸作家。街づくりや地域振興に関わる行政職員、NPOスタッフ、学校教員。空き物件の利活用に関心のある建築家、建築・内装工事等の専門家・職人、不動産オーナー。地域ブランディングに関心のある企業関係者等。</p>	14,700
18 公立大学法人 名古屋 市立大学	ヘルスケアアート活動をつなぐオンラインネットワークの構築〜コロナ社会の医療福祉環境改善に資するアートマネジメント人材育成〜	<p>【概要】オンラインを活用してヘルスケアアートに関わるネットワークの構築をはかるために「A.ヘルスケアアート・オンライン美術館／高齢者のためのヘルスケアアート」、「B.ヘルスケアアート・オンライン研究会／コロナ社会のヘルスケアアート」、「C.ヘルスケアアート・オンライン学習会／英国におけるヘルスケアアート」、「D.ヘルスケアアート全国サミット／オンラインが開くヘルスケアアートの未来」を実施する。</p> <p>【対象】医療福祉などヘルスケア施設のアートコーディネーター、企画広報担当の職員、医療現場の看護師、理学療法士美術館・博物館の学芸員、社会教育あるいは文化芸術分野のNPO職員、アート関連の市民ボランティア、芸術・デザイン系の大学に在籍する学生等</p>	6,900

# 令和3年度大学における文化芸術推進事業採択一覧

【単位：千円】

大学名	事業名	事業概要	内示額
19 学校法人同朋学園 名古屋造形大学	CITY BEAUTIFUL：地域社会における「対話」を顕在化させるアートマネジメント人材育成事業	【概要】①「てつがく対話」というレッスン：地域と人を把握するリテラシー獲得の基礎編。②場をひらく「ちいき食堂」計画：社会学的な視点と芸術的アプローチから「ちいき食堂」を興すための対話の場づくりを学ぶ。③集いのための「あかり」開発：人々が集うための照明デザインの開発への基礎講座。④「対話」という劇的空間へ：劇的空間を地域の人々に公開するための実践編。⑤共感のための「アーカイブ」：共感や課題の検証と普及の編集マネジメントを学ぶ記録編。 【対象】表現者、建築家やデザイナー、学芸員や文化施設の職員、教育・行政職員、まちづくりや福祉に関心のある社会人や市民、NPO法人運営者やスタッフ、アートマネジメントスキルを活かせる就職や起業を目指す学生など。	13,000
20 公立大学法人 奈良県立大学	地域の多層化と共有空間の創造に向けた実践型アートマネジメント人材育成プログラム GHISOU	【概要】「感覚」「生態」「時間」「共有空間」をテーマとする4つのプログラムを開講。各プログラムでは、アーティストと受講者によるプロジェクトチームを編成する。講師によるレクチャーや専門家との対話を通して、各テーマについて思考を深めながら、アートプロジェクトを共に企画・制作・実施することで、フィールドリサーチやインタビュー、アーカイブ制作などの技法を修得する。2021年秋から冬にかけて奈良県各地で自治体や企業、住民と連携して公演と展覧会を開催予定。読解・表現・共有のプロセスを重ねながら、芸術領域を横断するアートプロジェクトを、多角的かつ総合的にマネジメントするための技法を実践的に身につける。 【対象】美術館や博物館、芸術祭などのアートプロジェクトの現場において企画運営に携わる実践者。文化芸術や地域創造に関する研究者。若手アーティスト。アートマネジメントやプログラムコーディネーターに関わる仕事を目指す学生。文化芸術を活用した地域創造、観光振興、都市計画に関心のある地方公共団体職員や一般市民。	18,200
21 国立大学法人 北海道教育大学	芸術教育プログラムを活用した地域と芸術をつなぐアートマネジメント人材育成事業 ～万字線プロジェクト～	【概要】①連続公開STEAM教育ワークショップ及び戦略マネジメントゲーム講座により、アートマネジメントに必要な理論を学ぶとともに、地域活性化や環境の美化に資するアートプロジェクトを企画・実践する。②修得した理論に基づき、地域連携STEAM教育に関わるアーティストや作品等を映像記録としてライブラリー化し、オンラインで公開する。また、地域連携STEAM教育を題材にアートコンテンツを刊行し、編集から出版までのプロセスを実践的に学修する。③ワークショップやプロジェクトの企画・実践の成果を発信する「万字線プロジェクト展」及び「アートマネジメントフォーラム2021」を開催するとともに、運営を通じてアートマネジメントに必要なスキルを実践的に学習する。④これまでの活動を記録・編集して報告書を作成し、各活動の企画・実施・検証・改善を体系的に行う技能を習得する。 【対象】地方公共団体・民間企業の広報・企画担当実務者、アートマネジメント、イベントマネジメントを志す者	8,000
22 国立大学法人 横浜国立大学	都市空間に創造的に応答していく視点を持ったアートマネジメント人材育成プログラム「都市と芸術の応答体2021」	【概要】海外からも多くの参加者を得た令和2年度を踏まえてオンライン開催とし、①「都市と芸術」に関わる先駆的な探求を行うアーティスト・研究者・実務家によるレクチャーを通年で開催する。②映画監督・三宅唱氏の専門的指導を受けながら、受講生個人の身体と都市を結ぶ映像撮影・編集を通して議論を重ねていく「フィールド・ワークショップ1」を実施する。③「フィールド・ワークショップ2」では、映像以外の方法で都市記述の実践を試みる。④これらを総合し、令和4年度開催予定の「新しい芸術祭」に向けて企画作成を行う。⑤最後に、活動成果を次年度へつなぐオンラインイベントを行い、成果を発信する。 【対象】文化芸術・文化行政の分野で活躍するグローバルな人材、社会や都市への意識をもつアーティスト、学芸員、創造性を活用した教育を目指す教員、分野を超えていくアートを考えたい学生・社会人、まちづくりの分野で活躍する人材	11,200

## 【応募・採択状況】

応募件数	29件
採択件数	22件
採択率	75.9%
合計	336,000千円

令和3年度  
大学における文化芸術推進事業  
協力者会議委員一覧

おおこし ひさこ  
大越 久子

埼玉県立近代美術館主任専門員兼学芸員

かのう たみお  
加納 民夫

日本芸術文化振興会プログラムディレクター

しぶや たく  
渋谷 拓

金沢美術工芸大学 准教授

たかはぎ ひろし  
高萩 宏

東京芸術劇場副館長

ひさの あつこ  
久野 敦子

公益財団法人セゾン文化財団 常務理事

(五十音順・敬称略)

※委員が関係する事業の審査については、当該委員はその事業の審査に加わらない形で審査を実施した。